

# 厚生労働科学研究費補助金・成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 「不育症治療に関する再評価と新たなる治療法の開発に関する研究」 平成20年度～22年度

主任研究者 富山大学大学院医学薬学研究部 教授 齋藤 滋

妊娠

妊娠



→ 流産 →



→ 流産 →



- ・精神的ストレス
- ・専門医不足
- ・検査法、治療法が確立していない
- ・正しい情報を得るサイトがない

## 背景・目的

妊娠しても流産を繰り返す不育症は、その病態が多様で、またそれぞれの病態ごとの治療方針が一定しておらず、またストレス等の要因も病態を複雑にすることから、臨床医にとって難解で、患者さんにとっては、どの病院で診療を受けたら良いのか判らなかつた。そこで以下のことを本研究の目的とした。

- 1) 十分な医学的エビデンスに基づく不育症検査、スクリーニング法を提示する。
- 2) 不育症例のデータベースを作製し、不育症の実態を明らかにする。
- 3) 研究班の成果を全国の産婦人科医に活用してもらうため不育症治療指針を作成する。
- 4) 不育症患者が情報を得るホームページを公開する。

## どのような成果が得られましたか？

1. 毎年、全国で3.1万人の不育症患者が出現していることが判明しました。
2. 2,500人の不育症データベースを得ることができました。これは、我が国では最大のものです。
3. 適切な不育症スクリーニングを行ない、最適な治療を行なうと85%の方が子どもを持つことが判りました。
4. 不育症例では、たまたま胎児（赤ちゃん）の異常を繰り返しただけの偶発的な症例が半分、何らかの不育症と関連するリスクのある症例が半分いることが判明しました。偶発例や2回の流産歴の方には、カウンセリングが有効で、リスク因子がある方はリスク因子に応じた治療法が有効であることが判りました。
5. これまでの成果をまとめ「不育症管理に関する提言」とし、全国の産婦人科施設に発送し、また不育症患者さん用のホームページを作製して公開しました。

集計結果は以下のアドレスで公開中です。

<http://fuiku.jp>

## 期待される成果と残された課題

1. これまで不育症治療の専門医は少数であったが、研究班の指針に則した不育症管理が全国で行なうことができるようになりました（不育症治療の均霑化）。
2. 不育症という疾患があることを国民の方々知ってもらえるようになりました（社会への認知）。
3. 不育症に対しての精神的サポートが必要であることが判明しました。
4. 血栓症リスクのある不育症例に対して使用されるヘパリンカルシウムの自己注射が、保険収載されておらず自費診療となっており、改善が求められます。
5. 6回以上の流産歴のある患者は、治療成績が悪いので、新たな治療法の確立が必要です。